



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第二一九号）

だい かん
大寒

一月二十一日

申年の今年

一年で最も寒くなる大寒を迎えました。今年は暖冬といわれますが、やはり大寒ともなれば冷え冷えとします。この時期、暖かさを求めるせいでしょうが、ツバキの鮮やかな紅の花には目を奪われますし、なんとなく赤色のものを身につけたくなります。

今年は年頭から、いつにも増して赤が注目されました。申年の最初の申の日に赤い肌着を贈ると健康に過ごせるという言葉が広まり、デパートなどでは贈答用の赤い肌着コーナーが設けられるなど、十二年に一度の「申赤」が話題になったからです。

私はこの言われを初めて聞きましたが、子どもが親に肌着を贈るという地域もあったり、全国各地で習慣が異なるようです。猿は確かに赤い顔をしていますけれど、とりたてて赤色と猿には因果関係はないようで、これも、寒い時期に、いかにも元気が湧いてきそうな赤というのが一つの効果を生んでいるように思います。

株式相場の世界では、十二支にちなんだ格言があるそうです。

「辰巳天井、午尻下がり、未辛抱、申酉騒ぐ、戌は笑い、亥固まる、子は繁栄、丑はつまずき、寅千里走り、卯は跳ねる」

「申酉騒ぐ」とあるのは、動物としての猿の性質からでしょう。ことわざにしてもあまり猿は良いようには使われておらず、「犬猿の仲」、「猿も木から落ちる」、そして「意馬心猿（心が乱され抑えがたいこと）」にいたっては、乱れ動く心を奔走する馬と騒ぎ立てる猿にたとえています。伊勢志摩サミットを控えた三重にとって、申年はやはり騒がしい年になるのかもしれない。

文 千種清美

